

これから、おじいちゃんといっしょ

牛久保小・4 足立 すみれ

「おうい。ごはんまだか。」

わたしのおじいちゃんは、ごはんを食べたことをすぐわすれます。わたしが五才くらいのころから、だんだん道が分からなくなったり、字をわすれて書けなくなったり、物わすれが多くなりました。最初は、年を取ったからなあとだけ思っていました。でも、わたしの小学校入学の日、家で目まいが起きてしまったおじいちゃんは、病院に行き、お医者さんからにん知しようと言われました。にん知しようと言われてから、どんどん物わすれはふえていき、いっしょにくらす中でにん知しようについてもっと知りたかったのでこの「これから、リッキーといっしょ」という本を読みました。

この本には、家族がにん知しようになった女の子が二人登場します。一人目は、年を取った犬リッキーのかい主の若葉ちゃん。二人目は、おばあちゃんとくらす立華ちゃんです。わたしは犬にもにん知しようがあることもおどろきましたが、一番心に残っているのは、立華ちゃんがにん知しようのおばあちゃんが道にまよわないようにと、尾行をしている場面です。なぜかというと、わたしのおじいちゃんも何度か道にまよって帰れなくなることがあるからです。その時は、親切な人に助けられ、無事に帰ってきました。おじいちゃん、どこに行ったかな。帰って来られるかなと、家族みんなで心配していたので、立華ちゃんも、わたしと同じような気持ちで、おばあちゃんの帰りを待っていたと思います。

わたしのおじいちゃんは元々、しっかり者で字が上手で、ユーモアのある人でした。今でもみんなを笑わせるようなことを言うけど、それがユーモアなのか、にん知しようのせいなのか分からない時が

あります。でもおじいちゃんはずっと変わらず、わたしにやさしくしてくれます。わたしはそのおだやかな目が大好きです。

わたしが小さいころ、手を引いて歩いてくれたおじいちゃんはおもどつてこないと思うときびしくなります。若葉ちゃんも立華ちゃんも家族がにん知しようになつてさびしかったと思います。でも、物語の最後には、二人ともリッキーとおばあちゃんのにん知しようを受け入れて、楽しい時間をすごすことができます。

「おうい。ごはんはまだか。」

おじいちゃんは今では、一日に何十回も聞いてきます。そのたびにわたしも家族のため息をついてしまいます。でもわたしはおじいちゃんがおだやかにしてくれたように、おだやかな細い目で答えてあげたいです。このようにしておじいちゃんのにん知しようを受け入れていきたいと思います。もし、おじいちゃんの大きな手より、わたしの手の方が大きくなっても、二人で目を細めながらいっしょに歩いていきたいです。